

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念に「地域との交流によって豊かな人間性をかもし出す」という項目を取り入れ、住み慣れた地域での生活を支える意義を職員が理解し地域との繋がりを大切にしている。	○	今後も地域との交流を深め、利用者の豊かな人間性を育む支援を続けていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝業務開始前に理念の唱和を行い、理念を共有している。また、理念に沿った支援を入居者に対し行う為の部署内研修を実施している。また、管理者と職員で行うケアやカンファレンスの際にも、理念に基づきながら行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの玄関に理念を掲示しご家族やホーム来訪者に対して周知を図っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣に住む人が回覧板を回してくれたり、野菜を持参してくれたり、気軽に立ち寄れる関係作りが出来ている。また、利用者の散歩や買い物等で、近隣の商店と馴染みの関係が構築されつつある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に根付いている行事に招待されたり、こちらから参加して、地元の人々と昔を懐かしみながら交流を図っている。行事参加に当たっては、利用者が参加しやすいように配慮して頂けるようになった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ホーム職員は学生ボランティア、地域ボランティアを対象に認知症サーポーター講座の開催がある事を伝え、認知症高齢者ケアの啓発に努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後も地域に向けて認知症の啓発に努めていく。</p>
3. 理念を实践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の外部評価結果を踏まえ、夜間入浴に取り組んでいる。また、自己評価を全職員が記入し、外部評価の結果と照らし合わせ、改善に取り組む事で、サービスの質の向上に努めている。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議において評価内容や取り組みについて、お便り等の資料を活用し報告している。報告後、出席者に意見を求める事でサービスの向上に努めている。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議での検討事項を職員で話し合い、前向きに活かせるよう、職員の意識を高めサービスの向上に努めたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者とは運営推進会議以外に、毎月行われている地域密着型サービス部会で情報交換を行い、サービスの向上に努めている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者及び職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度についての外部研修会への参加や情報収集に努め、伝達講習等を行って職員に周知している。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者及び職員は、高齢者虐待防止関連法についての研修会等に参加し、虐待について学ぶ機会を持つように努め、ホーム内の虐待を防止するよう、カンファレンス等で話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>虐待の勉強会を行い、虐待の防止に努めている。また、常に自分たちのケアを見直す機会を持っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前にホームを見学して頂き、対応可能なケアの範囲について説明を行い同意を得ている。介護度が変更になった折もケアの範囲について家族に再確認をしてもらっている。解約の際も家族に十分理解して頂けるよう説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情を相談する市町村職員を受け入れたり、職員が利用者の意見を反映できるように、傾聴の気持ちを持って柔軟に対応できるよう努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを家族に送付し、毎月の行事の様子、利用者の生活の様子を写真を添えてお知らせしている。健康状態について随時家族へ報告し、ケアの相談を行っている。金銭管理については出納帳で管理し、家族来訪の際に確認とサインを頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した際、何気ない談話の中での意見、不満、苦情等を聞き漏らさず、管理者や職員で話し合い解決策を見出している。	○	利用について気軽に意見を言えるよう接し方を工夫し、いつでも傾聴できる姿勢を維持できるよう、職員間で努力している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士が話し易い職場を作るよう心掛けている。毎月のスタッフ会で日々の業務で気づいた問題点を提案してもらい、話し合いによって良い解決策や方向性を見出している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活に合わせた勤務者の確保や、職員の急な休みの調整ができるよう円滑なコミュニケーションに努力している。	○	職員の調整を図り、研修、夜間入浴や行事等を行えるように努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が馴染みのある管理者や職員と長く関わっていただけるように、職員がいつまでもこの職場で働きたいと思えるような環境作りや、職員間のチームワークを大切にしている。</p>	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修スケジュールをしっかりと組み、医療安全研修会・内部勉強会を行い職員の専門職としての育成を図っている。</p>	<p>○</p> <p>進学や研修会参加のため、勤務調整や金銭面の援助が行われているので、自己のスキルアップに努めたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大田原市ケアマネージャー連絡協議会会員として、定例会・研修会で意見交換を図っている。また、大田原市のグループホーム間でも職員の見学会を実施して意見交換や交流を図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員が自由に書き込めるノートを作成して、職員の不安や悩み、思い等を自由に書いている。また、スタッフ会で自由に思うことを話し合っている。ボーリング大会等も行い楽しんでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自己目標を立て、目標に沿って研修、講習会参加ができるよう勤務調整をし、向上心を持って働けるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>研修会に参加することで刺激を受け、新たな自己目標を持って向上したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の見学時から、本人が困っている事・不安を傾聴の気持ちで利用者の言葉に耳を傾け、気持ちや背景を把握できるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の相談の時から家族の要望や不安に思っている事を聞く機会を設け、受け止め、家族に安心してもらえるような解決策を見出している。	○ ホーム利用に至るまでの家族の心情に寄り添い、受け止める事に努めたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、本人と家族の状況を把握し、様々な可能性を考慮しながら、本人に必要なサービスが利用できるように他事業者とも連携を図っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの情報を踏まえ、和やかな雰囲気ですぐに馴染めるように一緒にお茶を飲んだり、会話を取り持ちながら、本人の人柄や、性格を見極め、個々に応じた対応をしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が料理や畑仕事について利用者にも教えてもらう機会が多くあり、職員からの感謝の言葉が利用者の自信に繋がり、お互いに支えあう関係が築けている。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、家族と本人について情報交換をし、職員からもケアについての相談をし、一緒に本人を支えていける関係作りに努めている。	○	家族と連絡を取り合うことで緊急時の対応をスムーズに行えるようにしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族から、これまでの本人との関係を聴いたり、本人にも話を聴き、本人と家族の間に入りながらより良い関係が築かれるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に馴染みの場所に立ち寄れる支援をしている。また、本人の友人・知人、親族の来訪の際にはゆっくり話ができる環境作りに努めている。	○	本人の友人・知人の面会があった際には、ゆっくり話ができるような環境作りに努めたい。また、今まで知らなかった本人に関する話を伺える機会でもあるので大切にしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が楽しく関われるように、共同作業をしたり、会話を取ったりしている。また、利用者間にトラブルがあった場合は速やかに間に入り解決に努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用を終了した利用者や家族に、行事の招待状を送り、ホームとの関係継続に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望や意向を引き出す事に努め、それを日々の生活や行事に取り入れている。また、意向の把握が困難な利用者については、家族から情報を得たり、態度や表情を読み取り本人本位になるよう努めている。	○	夜間入浴の実施等、本人から希望があれば検討し実施を続けいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に今までの暮らしぶりや、好きな事等を聞く事で利用者把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活の様子、リズム、体調変化等をケース記録と申し送りする事で、全職員が把握できるように努めている。また、本人のできる事を生活に組み込む事で現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からも意見や要望を伺いながら、利用者のケアについてアセスメントを行い、課題を明確にしている。また、介護計画を作成している。	○	本人や家族の意見がケアに反映できるように、専門職との連携を図りたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年毎に評価を行っているが、入居者に体調その他に変化が見られた場合はその都度、本人の意見を取り入れると共に家族と相談しながら、現状に即した介護計画作りに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	○	<p>夜間帯の緊急時の際の医療機関の受け入れなどについて見直しをする。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診の際にはかかりつけ医が利用者の日々の様子・体調変化が分かるように受診連絡票を活用し家族に情報提供している。また、受診内容を記入してもらう事で連携を保っている。</p>	<p>○</p> <p>受診支援の際は、日常の様子を細かく記載し、医療機関に受診しても状態が分かる取り組みをしたい。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>隣接している医療機関の医師は、認知症に関して理解をしているので、職員が相談でき、利用者も安心して受診する事ができる。</p>	<p>○</p> <p>回診の時などを利用し、医療相談のできる関係作りに努めたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>隣接している医療機関の看護職員とは、健康診断・予防接種を通して関わりを持ってもらっている。日常の健康管理についても相談できる関係になっている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した際には、面会を行い様子を伺いながら、担当医やソーシャルワーカーと、情報交換や退院に向けての相談を行っている。</p>	<p>○</p> <p>病院関係者との情報を基に、退院後の支援を家族と連携しながら行いたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期を受け入れる体制になっていない為、家族と相談し、病院や終末期を受け入れている施設に入院したり、移る事ほとんどである。</p>	<p>○</p> <p>利用者の高齢化に伴い、ホームにおける終末期のあり方について今後検討していきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化した場合には、早急に家族との連絡・面談を行い、対応について検討している。</p>	<p>○</p> <p>本人、家族の意思を尊重し、かかりつけ医と連携を図りながらこれからのケアを検討していきたい。また、介護職員としての倫理や死生観についての部署内研修を行い、重度化や終末期に向けた支援に取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから別の居所に移り住む場合には、ダメージを防ぐよう家族や関係者と話し合いをしている。また、情報提供書を作成し、家族の同意を得た上で情報の提供をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ介助・入浴介助等プライバシーに配慮した支援を心掛けている。また、個人情報に記載されている書類は持ち出しを禁じ、個人情報保護を徹底している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の自己決定を尊重し、意志を表現できるような会話や関わり作りに気配りをしている。意志の表出が困難な場合でも選択肢を用意し、本人に分かり易いように工夫し、自己決定できるように配慮している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合でどの利用者にも同じ事を押し付けるのではなく、利用者を選択権がある事を職員が自覚し、一人ひとりの希望を取り入れた支援に取り組むように努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時や入浴時の更衣の時、本人の好みの服が着られるよう選んでもらっている。理容・美容は家族と相談して本人の希望する店に行けるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立作りに利用者の意見を反映させている。また、調理、食事の盛り付け、片付けを職員と利用者が協力して行っている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の好みを考えた献立作りと、楽しい雰囲気の食事になるよう支援していきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物・お酒は、利用者の好みのもを選ぶことが出来る。また、本人のお小遣いで好みのものを買い求め、楽しめるように支援している。</p>	
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握している。また、できるだけトイレで排泄ができるように声掛けを行い支援している。</p>	<p>○</p> <p>トイレの声掛けや誘導をこまめに行い、清潔を保った排泄介助が出来るように心掛けたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者好みの入浴時間や入浴手順を尋ね、本人が安心して入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>○</p> <p>拒否が強い方の入浴方法や声掛けを考えて、入浴が楽しみに成る支援をしたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣に合わせて起床時間が違っている。いつでも昼寝や休息が出来るように支援している。また、寝具や室温の調整をし快適な安眠が取れるようにしている。</p>	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事作り、畑仕事、裁縫、編み物等一人ひとりの力を活かせる場面を作り、それぞれが役割、楽しみを持てるように支援している。</p>	


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>各自が小遣いを持ち、個人で管理したり管理が困難な利用者は施設で管理している。また、外出や買い物の際に希望を聴きながら、好きなものが買えるように支援している。</p>	
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の希望に合わせて、散歩や買い物による外出がいつでもできるように支援している。</p>	
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>利用者の希望を聴きながら家族と話し合い、普段行けない墓参りや実家への帰省等が行えるように支援している。</p>	
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の希望があるときは、事務所内の電話を利用できるように支援している。また、家族からの電話の際に本人とも会話ができるようにしている。本人より希望があった場合や、家族や知人からの手紙の返事を書く事ができるように支援している。</p>	
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>家族・友人・知人等本人の馴染みの人たちが訪れた時には、温かく迎え、ゆっくりと過ごしていただけるように配慮し、また来たいと思っただけのような対応に努めている。また、来訪者から利用者の昔の話などを聞いてケアに活かしている。</p>	
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者の権利擁護について研修会を行いし、身体拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	関連施設で行われている感染症に関する研修会に参加し、予防や対応について学んでいる。利用者は家族の同意を得てインフルエンザ予防接種を行っている。職員についても全員予防接種を受けている。職員が感染症にかかった際には、出勤の自粛によって感染拡大の防止に努めている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使用できるように必要な分だけ買い物に行っている。また、食材を調理する時は必ず手袋を着用し、調理器具の消毒をその都度行い、食材は2度洗いをすることで食中毒予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	来訪者が親しみを持てるよう入り口やガラス窓を装飾したり、利用者の作った作品を飾っている。また、職員の顔写真を掲示する等、雰囲気作りに努めている。	○	施設が大学の敷地内にある為、他から分かり難い場所にある。看板を立てたり、パンフレットを作成したりして広報に努めたい。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間は花を生けたり、利用者の作品を飾ったり季節を感じる装飾をしている。また、テレビの音に配慮したり、音楽を流したり、過ごし易い雰囲気作りに努めている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの共通空間にあるソファ、畳コーナーで入居者同士が思い思いに過ごし、憩いの場になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設は大学の施設内に設立されているボランティアセンターがあり、学生ボランティアや地域のボランティアの活動の場となっているため、利用者が若い世代から同世代の方々との交流が出来る環境にある。また、共に生きるを実現する為にボランティアや施設見学者を積極的に受け入れている。